



認定NPO法人環境ネットワーク埼玉通信



E·N·S通信

No.28



埼玉県地球温暖化防止活動推進センター

Saitama Center for Climate Change Actions



Index

表紙寄稿：納富 信氏

(早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科教授)

環境ネットワーク埼玉より

埼玉県地球温暖化防止活動推進センターより

事務局からお知らせ



地球温暖化・気候変動問題に私たち市民が出来ることは何でしょうか？

早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科教授 納富 信

みなさん、最近の異常気象をどう感じていますか？生活の安全を脅かすレベルまで災害が頻発していると感じませんか？例えば、局地的豪雨、台風の大型化、野生生物の生息範囲の変化は、“地球温暖化・気候変動”が強く影響しているといわれています。

その原因の多くは、私たちの生活の利便性・快適性向上のための地球上の資源を消費するところにあります。それでも、私たちは地球の恩恵を受けて生きざるを得ません。故に、多くの化石燃料や天然資源を、出来るだけ“効率的”に利用することが大事なのです。

そのために私たちが出来ることは、まずは確かな知識を持つこと、何を為すべきかを考え、そして実行することです。例えば、省エネやゴミ減量などの取り組みを理解・共有し、その活動を活発化・継続させることも大切です。

私の研究室では、温暖化防止に向けたライフスタイルの変革のための認知・行動を効果的に促進する方法を研究しています。如何にして正しい知識を理解し、省エネ行動の実行につなげるか、その心理と行動との関係を明らかにして温暖化・気候変動対策を進めることを目指しています。

みなさん、確かな知識を持って、できるところから行動を起こしましょう！





環境ネットワーク埼玉より

世界は脱炭素社会に向かって動き始めています！

昨年は、台風 15 号、19 号の襲来で関東圏および東北地方は広範囲にわたり甚大な被害がもたらされました。まさに、気候変動の影響と思われる風水害が日本各地で頻発しています。今後はこのような大型台風やゲリラ豪雨による被害が頻繁に現れると予想されます。

日本ばかりでなく世界でも、高温化による森林火災や熱波、北極圏の氷の融解など様々な気象災害が現れ、気候変動の影響が報告され、対策が喫緊の課題として取り上げています。

このように気候変動対策が急がれる中、一昨年の COP24 で実施指針（ルールブック）が採択されたことを受けて、いよいよパリ協定が予定通り 2020 年からスタートする予定でしたが、昨年末に開催された COP25 ではパリ協定の実施指針の積み残し課題の一部については合意が得られず、今年の COP に持ち越されることになりました。一方日本は、温室効果ガス排出削減目標の引き上げや CO2 排出量の大きい石炭火力発電から脱却する方針を示すことができず、国際社会から厳しい批判を浴びるなど残念な印象を残しました。現在、パリ協定が採択された 2015 年時点で各国から提出された 2030 年目標を合計しても、2℃達成には不十分であることが報告されています。また、一昨年には気候変動に関する政府間パネル（IPCC）から 1.5℃特別報告書が公表され、気候変動影響を最低限に抑えるためには 1.5℃を目指すべきであることが示されました。そのためには、2030 年までに温室効果ガスの排出量を 45%削減、そして 2050 年までに正味ゼロにする必要があります。今後、脱炭素化への声はさらに加速化されていくことが予想されます。

そのような中で、スウェーデンの 17 歳少女グレタ・トゥンベリさんの呼びかけで、世界各地で若い世代がスクールストライキや気候マーチを実施し、それに押されて多くの国や自治体が気候非常事態を宣言しています。まさに、脱炭素化に向かって世界は大きなうねりが起こり始めています。今後新たな文明社会をめざし、考え方を転換（パラダイムシフト）していくことが必要であり、様々なイノベーションが脱炭素社会の実現を後押しすることが期待されています。

令和元年度彩の国埼玉環境大賞 受賞者決定

埼玉環境大賞は埼玉県及び株式会社テレビ埼玉と当センターが主催する、環境保全や環境学習などに取り組む個人、団体や企業を表彰する制度です。令和初となる今回は 40 組の応募があり、厳正な審査の結果、大賞 1 組、優秀賞 9 組、奨励賞 5 組の計 15 個人・団体等が決定しました。大賞は、さいたま市内で自然緑地の再生や保存等を 23 年間活動してきた“さいたま市みどり愛護会”が選ばれました。今回は、当団体の設立にも尽力いただいた“土淵 昭”さんが、県内の多くの環境団体立ち上げに携わり、かつ環境まちづくりを推進したことが評価され奨励賞県民部門（個人）を受賞されました。（写真：土淵氏受賞の様子）





第1回SDGsエコフォーラムin埼玉 ～つながろう ひろがろう 世代を超えて エコの環～を開催

これまで9回開催してきた『低炭素まちづくりフォーラムin埼玉』を改称し、持続可能な社会の構築を見据えた新たな取組として『第1回SDGsエコフォーラムin埼玉』を12月14日（土）、東洋大学川越キャンパスにて開催しました。当日は県民や学生、環境団体や企業など延べ484人の参加を得ることができました。

今回は新たにSDGsや地域循環共生圏の視点を発信するため、SDGsに関するパネル展示、東洋大学川越キャンパス内の“こもれびの森フィールドツアー”、さらに、2019年度青少年国連大使であり中学3年生の“島村仙さん”によるSDGsスピーチをプログラムに加えました。島村さんからは、「ペットボトルを使うことに、ほんの少しの罪悪感を持とう」、「今日の帰り道にごみを拾ってみよう」など鋭い指摘を受け、多くの参加者は驚きを隠せませんでした。



東洋大学川越キャンパス



竹村学長基調講演



島村仙さんスピーチ



エコライフDAY感謝状贈呈



パネル展示



フィールドツアー



分科会



報告書をホームページに公開しています。
[〈https://www.kannet-sai.org/about/activities/2019/1214.html〉](https://www.kannet-sai.org/about/activities/2019/1214.html)

第10回埼玉自然エネルギーフォーラム～太陽光発電の光と影～を開催

埼玉自然エネルギーフォーラムを、1月19日（日）に大宮ソニック市民ホールで開催しました。今回は「太陽光発電の光と影」というサブタイトルを加え、太陽光発電の課題やこれからの有効利用について、多様な側面から話題を提供しました。FIT制度における2019年問題への対策、さいたま市の「スマートシティさいたまモデル」の事例による未来の脱炭素社会の住まい方、さらに太陽光発電の大規模導入が進む中での課題への対策など、今後太陽光発電を適切に管理し効果的に利用することで、いかに脱炭素社会へ貢献していくかを皆で考えました。参加者は60人ほどで県外からも参加者が来るなど市民の関心の高さが伺えました。



フォーラムの様子



埼玉県地球温暖化防止活動推進センターより

推進員研修会を開催

今年度も埼玉県からの委託事業として、推進員研修会を県内3ヶ所で実施しました。今回は、自治体担当者も交えたエコライフ DAY 拡大に向けたワークショップや、パソコンを使った企画書等作成研修、ナッジを推進員活動に取り入れるための勉強会など、これまでに無い新たな企画で研修を行いました。



第1回研修の様子



第2回研修の様子



第3回研修の様子

また、次年度から新たに推進員委嘱者を対象とした研修会も実施し、委嘱予定47名のうち40名が参加しました。研修会では、現在推進員として活躍している“国井範彰さん”、“鈴木晴美さん”、“吉田征人さん”から、推進員になった経緯や活動について紹介いただき、参加者からは現場の声が聞けて大変参考になったとの感想をいただきました。後半のワークショップでは全国地球温暖化防止活動推進センター代表理事 高田研氏による進行のもと、推進員活動を何から始めれば良いかについて熱心な議論が交わされました。



嶋田氏(CESS研究企画室長)講演



ワークショップの様子①



ワークショップの様子②

推進員活動紹介



今回は、所沢市を中心に活動する鈴木晴美さんについてご紹介します。鈴木さんは、『地球があるのは当たり前じゃない。大好きな音楽やスポーツ、美味しいものも地球があるから』という想いのもと、2016年に推進員になりました。そして自ら“光と水の会”を立ち上げ、地道にメンバーを集め、現在会員5名で活動を展開しています。当初は自分に何が出来るかと試行錯誤でしたが、積極的に当センター主催等の研修会に参加し、今では自治会等における講座での講師や、団体の勉強会では推進員として自らが学んだことをメンバーに伝えるほか、会報誌

を発行するなど、活動が盛沢山に広がっています。昨年11月には和光市主催の市内小学校4年生を対象とした省エネコンテスト2019受賞者とその保護者約100人に対して、地球温暖化に関する講演も行いました。当センターでは、第2第3の鈴木さんのような推進員活動が育っていくことを心より期待しています。





うちエコ診断

今年度も首都圏ネットうちエコ診断実施事務局として、パルシステム埼玉の組合員対象の診断や国立市におけるイベント診断など、あわせて47件のうちエコ診断を実施しました。当団体が本事業を開始してから今年度で10年目を迎え、これまでに1,556名の方々に診断を受けていただきました。うちエコ診断は今年1月にNHK情報番組「あさイチ」で取り上げられるなど、家庭の省エネを進めるにあたって注目が集まっています。環境ネットワーク埼玉では、次年度も「首都圏ネットうちエコ診断実施事務局」を継続しますので、ご興味のある方は事務局までお問合せ下さい。



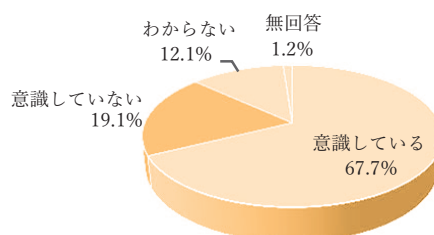
うちエコ会場診断の様子

住宅の断熱に関するアンケートを実施

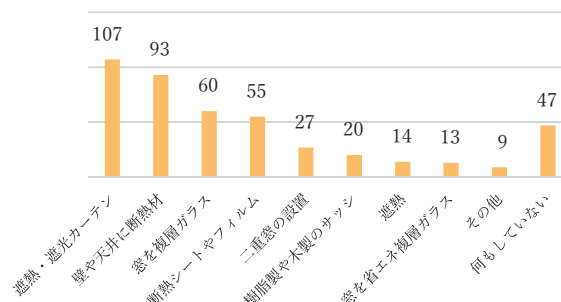
家庭における住宅の断熱状況について、市民の意識とその実態を調査するため、住宅における断熱に関するアンケート調査を実施しました。特に、冬場に断熱効果が高いため、秋口から冬場にかけて調査票を回収しました。結果、県内257名から回答をいただきました。

調査結果から、住宅の断熱性能や気密性能を意識している人は全体の67.7%いることがわかりました(図1)。また、実際にどのような取組をしているかについては、遮熱・遮光カーテンが最も多く、次いで壁や天井への断熱材導入、窓を複層ガラスにするが多くなっています(図2)。一方、何も意識していない人が19.1%いて、その理由としては費用が高いことや、リフォームや建て替え時を予定している人が多く、断熱に対する普及啓発の必要性があることがわかりました(図3)。詳細な結果やクロス集計はホームページ〈<https://www.kannet-sai.org/center/survey/>〉に掲載されていますので、是非ご覧ください。

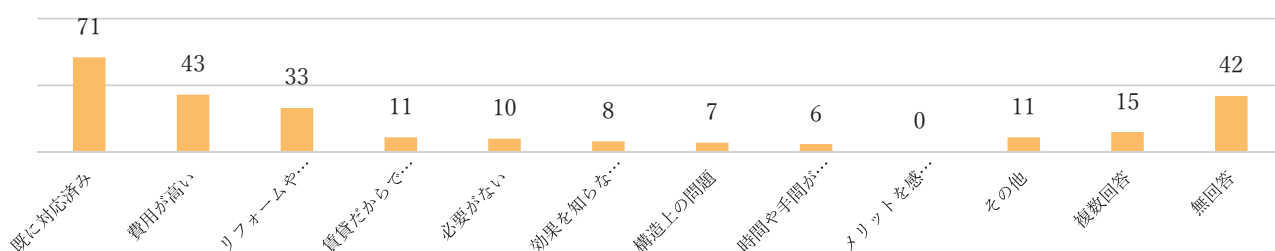
住まい断熱性能や気密性能を意識しているか
(図1)



どのような住宅の断熱の取組をしていますか
(図2)



建物の断熱をしない理由について(図3)





● 事務局からのお知らせ

令和2年度 特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉 通常総会のお知らせ

日時 2020年6月21日(日) 13:30~16:30

会場 埼玉会館 7A会議室

内容 ① 講演会[13:30~14:30]

「熱中症予防対策について(仮称)」

一般社団法人環境情報科学センター

② 通常総会[15:00~16:00]

※講演会はどなたでもご参加いただけます。なお、内容は変更となる場合があります

表紙の写真より



狭山市笹井地区入間川 (提供: 吉岡勇三氏)



上: 熊谷市荒川大橋下流
下: 狭山市上奥富用水堰



川越市内

地球温暖化の影響と考えられる台風の大型化が全国各地で被害をもたらすようになりました。2019年10月の台風19号の襲来では、埼玉でも大きな被害の爪痕を残しました。被害に遭われた皆様へ心よりお見舞い申し上げますとともに、早期復旧をお祈り申し上げます。

[新会員・寄付者一覧]

個人正会員: 伊原 洋輔様

個人賛助会員: 茂木 幸蔵様

寄付: 赤井 清様、環境まちづくり

地域協議会inにいざ、埼玉県地球温

暖化対策西部地域協議会連絡会

会員・寄付募集中!

認定NPO法人である当団体への**ご寄付**及び**賛助会費**は、**税制優遇措置の対象**となっています。所得税、法人税、相続税、一部の自治体の住民税において、それぞれ定められた条件を満たすことで優遇対象となります。詳しくは、ホームページをご覧ください。引き続き、皆様のご支援ご協力をお願いいたします。



編集・発行

発行日 2020年3月31日

埼玉県地球温暖化防止活動推進センター／認定特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉

埼玉県さいたま市浦和区北浦和5-6-5 埼玉県浦和合同庁舎3階

TEL: 048-749-1217 FAX: 048-749-1218

<http://www.kannet-sai.org/index.html>

閉館日: 土・日、祝日 開館時間: 9時~17時

情報やお知らせ等、是非お寄せください。

